

声

業界の

● 山梨県ワイン酒造協同組合

理事長 二澤茂計氏

業界の現況は？

当業界は、現在も続いている円高に大きな影響を受けています。円高により低価格の輸入ワインが首都圏の市場にて出てきています。一方、県産ワインの人気は高まりつつありますが、ブドウ栽培農家の生産意欲は逆に低下しています。購入ブドウの買入価格を下げることは、ワイナリーではブドウ農家との契約もあり困難です。そのような中、長引く景気低迷も重なり、消費者がこの低価格ワインへ流れてしまいうことが危惧されています。

しかし、この低価格ワインの登場は、ワイン愛好家の底辺を広げ、国内のワイン消費量の増加にも繋がる可能性があります。今までワインを飲んだことがない消費者に対して、ワインを飲み始める良いきっかけとなることを期待しています。また、県産ワインの魅力を見つめ直す良い機会だとも思います。あらゆるワインの中でも産地にこだわり光る県産ワインの魅力を見つめ直し、それを消費者にアピールしていくことが重要だと思えます。

今後の展開は？

今後は、海外市場への進出が重要になってくると思えます。EU諸国の中では、1人当たりの年間ワイン消費量が日本の20倍以上の国も沢山あります。この大規模な市場に対し、山梨県の主力である「甲州種ブドウ」を中心に、県産ワインの魅力を海外に発信していくことが重要です。当業界では国・県・市等と連携し、K.O.J (Koshu Of Japan) をスタートさせました。K.O.Jでは、日本を代表する「甲州」の品質向上をはかり、世界市場において認知度を向上させ、適切なマーケットプレイスを獲得することを目的としています。既に、世界のワイン情報の70%を発信するロンドンへの輸出が始まっています。今後とも、より多くの参加企業がロンドンにあるUKインポーター（海外レストラン等へワインを売り込む者）と契約し、市場拡大に向けて努力していこうと考えています。



甲州種ワイン